

第 19 回 KTSM 沖縄実技セミナー

基礎コース開催報告

—開催目的—

経口摂取の早期開始・継続するためには、安全に評価を実施し、経口摂取開始する食事介助技術が必要である。同時に、セルフケアを高めていくためのスキルが必要となる。対象の良好な機能を活かすことのできる評価技術、安全でセルフケア能力を高めることを意図した食事介助スキルアップを図ることを目的とする。

—開催概要—

日時:平成 27 年 10 月 10 日(土)

時間:13 時 30 分～17 時 15 分

場所:名桜大学

講師・アドバイザースタッフ

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山珠美	NPO法人口から食べる幸せを守る会 理事長	看護師（日本摂食嚥下 リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
竹市美加	NPO法人口から食べる幸せを守る会 副理事 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
大城清貴	社会医療法人友愛会 豊見城中央病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
加藤節子	医療法人光風会 北山病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
赤嶺幸乃	社会医療法人友愛会 豊見城中央病院	看護師 KTSM 実技認定者
大城睦也	社会医療法人敬愛会 中頭病院	看護師
仲村雄子	社会医療法人敬愛会 中頭病院	看護師
山田吉里子	社会医療法人敬愛会 中頭病院	看護師
笠井睦美	医療法人光風会 和光園	言語聴覚士
上地美佐枝	医療法人光風会 北山病院	看護師

セミナーサポート		<敬称略>
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
城間かおり	特定医療法人アガペ会北中城若松病院	管理栄養士
高良孔明	高良歯科医院	歯科医師
野崎希元	名桜大学	看護師

主催:NPO 法人 □から食べる幸せを守る会

共催:名桜大学

後援:マルハニチロ株式会社、日清オイリオグループ株式会社

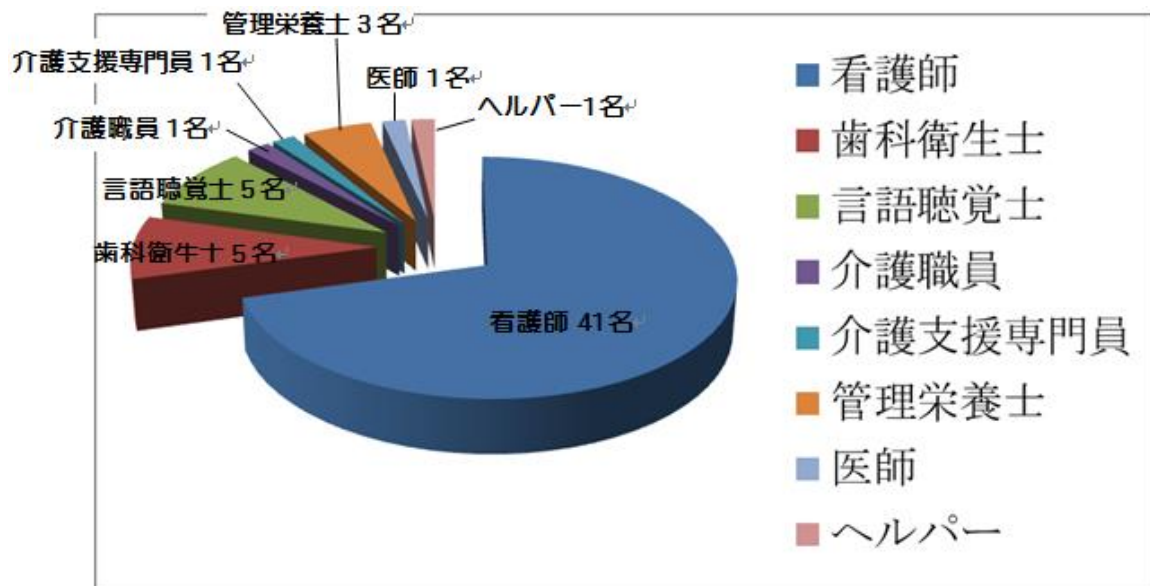
株式会社クリニコ、株式会社大塚製薬工場、フードケア株式会社

ティーアンドケー株式会社、株式会社明治

ビーンスターク・スノー株式会社、ヘルシーフード株式会社

有限会社沖縄総合フード、ラックヘルスケア株式会社

実技セミナー受講者（参加者 58 名内訳）



沖縄実技セミナー受講の皆様に、研修終了後アンケートにご協力いただきました。

アンケート回答者数 22/58 名

看護師	11名
歯科衛生士	5名
言語聴覚士	3名
管理栄養士	2名
医師	1名



口から食べる幸せを サポートする包括的スキル

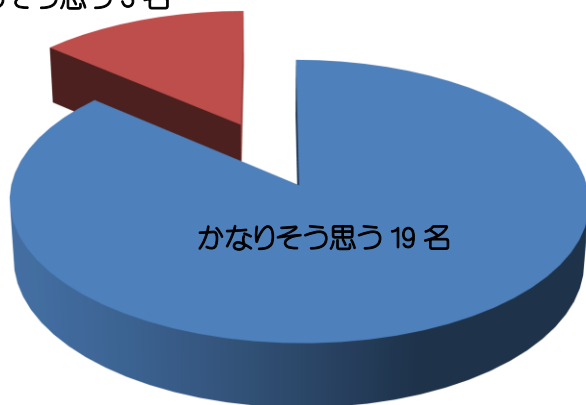
KTバランスチャートの活用と支援

編集 小山珠美



スキルアップに繋がったと思う

まあまあそう思う 3名



■ かなりそう思う
■ まあまあそう思う

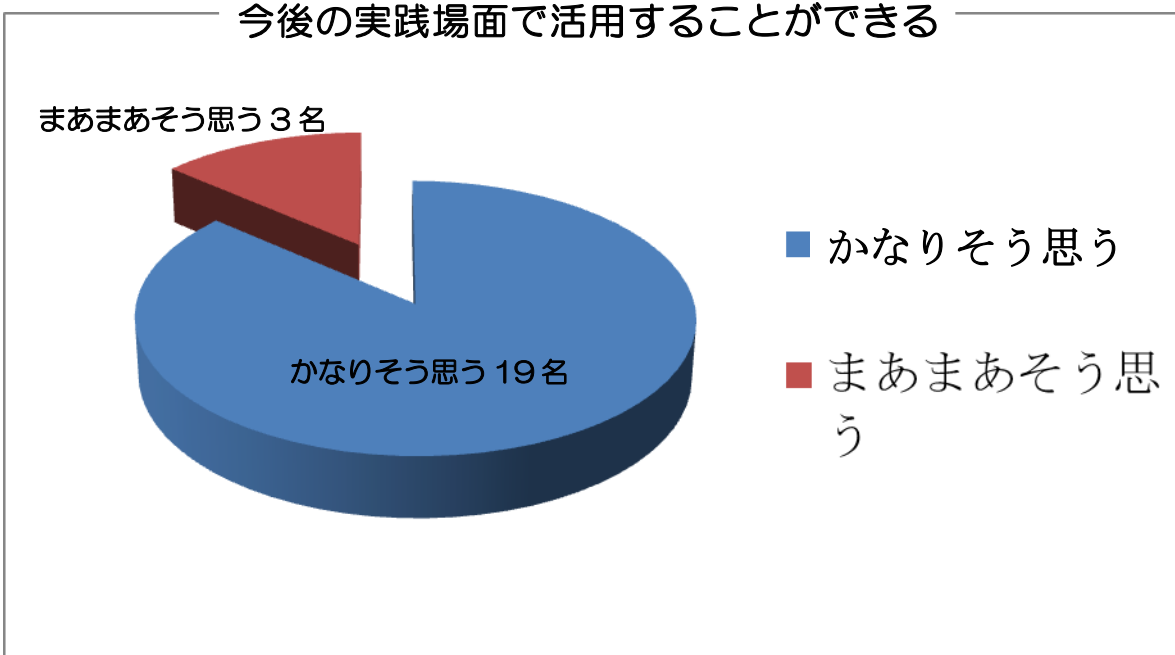
* 講義と実技共に内容が充実していた。一つ一つの技術を根拠を持って、実感を持って行うことができると感じた。

* 講演、実技セミナー、すべてから、本気で食べることに向き合って、また

実践し結果をだしていることを端々に感じました。手際よく、要所について、包括的にアプローチをしているのが、実技指導の中で非常に感じました。包括的なアプローチを、この短時間で学べたのは、非常に貴重な出会いでした。

- * 今迄、試行錯誤しながら独学で介入してきた分野だったのでセミナー受講することで自信につながりました。
- * スプーンの操作、五感を活用した介助法、補食介助の操作など実技は良かった。
- * 研修後、実際にポジショニングや食べる様子をよく観察しアセスメントしながら援助介入と行動するようになりました。
- * 食べるための技術が、こんなに必要であることを改めて確認できました。
- * 日頃の自身のアプローチの見直しができることと新しい視点が追加され、モチベーション向上にもつながりました。
- * ベッドの角度、タオルの使い方、工夫で姿勢が楽になる事が体験でき、ケアする時にも取り入れていこうと思いました。
- * KT バランスチャートを活用することで、医療従事者の力を総動員し、それぞれの分野の強みも活かされる。また、介入前後の評価が可視化し、どの分野がみても一目で分かる。

今後の実践場面で活用することができる

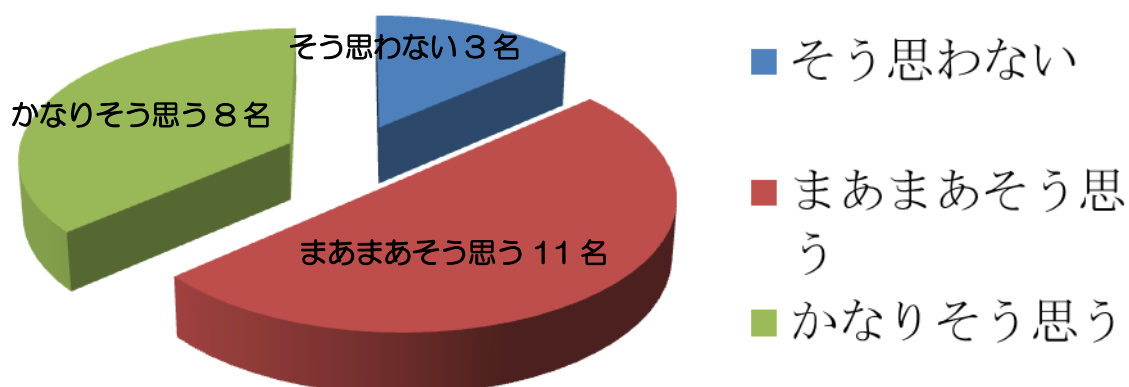


- * 実際翌日出勤した際、手添えでの介助が必要な患者さんがおられ、早速セミナーで教えられたポイントを思いだして介助しました。他のセミナー内容も日々の場面で必要な技術ばかりでした。
- * 病棟でのラウンド時にすぐ取り入れてやっていますが一緒に参加した看護師も、

すぐに実践に取り入れており、非常に嬉しかったです。

- * セミナー1日前に脳梗塞を起こした方が経管栄養か点滴か、と家族に説明されていました。スタッフも経口摂食させたいと思う方が多く、経管栄養にすることでミトン使用する事につながり予後を抑制で終わらせたくないに関わってきたスタッフが同じ思いでした。今回学んだ 13 項目の評価を行い NS サイドで出来ることを視覚化し計画立てています。梗塞おこし口が乾燥し口腔ケア行うこと口をすぼめ拒否行動あったが、口腔乾燥の悪化予防行ない、今では流涎があり、発語はないが発声し、舌も動くようになってきています。セミナー受講し自信がもて参考書活用しながら口から食べられるよう、今看護師が出来る援助を見つけ他職種とかかわっていきたいと思います。
- * 食事介助場面で悩んでいる看護師や家族に対してペースや入れ方に関するアドバイスを自身がもてました。
- * KTSM の取り組みは食べるという生活を守るという支援で人間の生命を守っていると分かりました。私たち看護師は守るということに努力することは使命だと思います。食べることを支援する援助は活用されるべきであると思います。
- * 声かけ、姿勢、食事の配置、スプーンの操作、食べる順序、さらに五感を刺激し介助をする事によって食欲をそそるように心がけ、食する幸せな気持ちを与えたいです。
- * 口腔ケアが全身へ与える影響を考えると、今まで業務で忙しいを理由におろそかになっていたケアだが Pt への影響を考えると申しわけない。今後、口腔ケア時のアセスメントも大切にしていこうと思う。

病院、施設や地域での研修企画を行おうと思いますか



- * 食べる援助は基本的な看護技術として身につけるべきスキルと思います。
院内全体での研修企画は難しいですが、まずは自分の病棟スタッフへの伝達から始めたいと思います。
- * セミナーに参加して自分のスキルアップをしたいです。
- * 定期的に、このようなセミナーが受けられたらありがたい。
また、介護に携わる全ての方が学ぶ機会があればいいと思う。
- * 短時間で、密度の濃い講習でありながら、再現して、実践にすぐにつなげられる内容だったから。
- * 急性期だからこそ、脳が食べる事を記憶しているうちに介入したほうが、摂食機能の回復もいのように感じたため
- * 高齢化社会における、これからの医療のメインになりそうです。口から食べて一生を終えるのが人間としてあるべき姿だと思います。
- * 私たち病院だけではなく地域の施設のみんなでKTSM活動出来ると、より生活を尊重することができると思います。
- * 自分では、まだ企画は出来ませんが、機会があったら参加したいです。
- * KT バランスチャートを実際に Pt へ使用してみたい。当院には今回講師として参加したメンバーを始めとするスタッフがいる。そのメンバーが日々ベッドサイドにて今回セミナーで教わったことなどを病棟内や院内で講義して頂いているおかげで病院全体スキル向上へ繋がっていると改めて今回のセミナーに参加し実感した。今後私もそんな患者様を支えられるスタッフの、一員になりたい。

<午前中の講演会>



外は嵐のような天気にも関わらず、沢山の皆さまが小山先生、吉田先生のご講演の拝聴のため足を運んでくださいました。

みなさん熱心に耳を傾けてくださり また、講演後の意見交換会でも活発な意見交換が交わされました。

沖縄県北部での「口から食べること」への地域連携の記念すべき第一歩です。

＜午後からの実技セミナー＞

実技セミナーには 58 名の多くの方々が参加してくださいました。
大学のボランティアスタッフの協力、協力企業の方々も熱心に見学に来て下さり
会場は開始より熱気が満ちていました。



実技演習①(ベッドでの基本姿勢)

すべての基本は姿勢から。肘に枕があるとないとでは肩から首にかけての筋緊張が明らか異なります。安楽な体位は誤嚥防止に繋がります。
参加者のみなさん、とても熱心にメモをとられていました。



実技演習①-1(口腔ケア)

歯ブラシの持ち方、唾液腺マッサージ、ブラッシング方法、視線を遮らないケア方法
吸引ブラシを使用した粘膜清掃、洗口の大切さをお伝えしています。
愛護的なケアは口腔ケアから始まる「口から食べるケア」へと続いていきます。



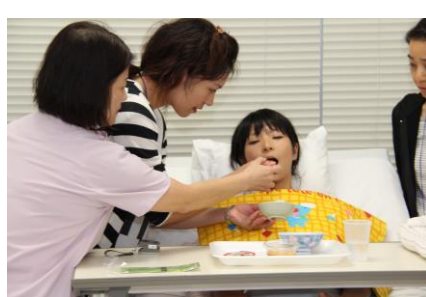
実技実習①-2(ベッドサイドスクリーニング)

患者さんに対し、今から何を行うのか、患者さんに本当に見えているか、伝わっているのか、視覚情報から始まります。見せているつもりでしたが「見えていますか？」
「見えないですね」と、患者さん役の方には体験していただきました。

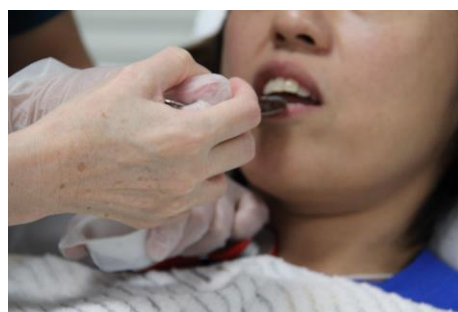


実技実習②(ベッドでの食事介助方法)

テーブルの位置、視覚情報、目線、スプーンの挿入角度、飲み込みのタイミングの
観察、自分で食べているかのようなスムーズな介助が患者さんの食事ペースを取り
戻すことに繋がります。



小山先生によるスムーズな交互嚥下のための2個持ち、手添えによる指導



実技演習③(車椅子での基本姿勢とセルフケア拡大)

よく見かける片麻痺のある患者さんの食事風景を体験していただきました。
車椅子乗車の際のタオル一枚の使用、足底・肘・体幹の位置と安定を体験していただきました。あちらこちらから「あ、全然違う」との声が聞かれました。



名桜大学学生さんによる物品準備

今回、参加者数 58 名の 11 グループとかなりの大所帯。裏方さんのおかげでスムーズにセミナーを進めることができました。



充実の実技セミナーを終え、皆さん満面の笑みを見せてくださいました。
来年の開催に向けて新たなメンバーも加わり、更に充実の予感の沖縄実技セミナーでした。



ご協力くださいました各企業の皆様、名桜大学の皆様
スタッフ、アドバイザー、参加して下さった皆様、
本当にありがとうございました。

平成 27 年 10 月 10 日